

悲しみを知る

善い念の代表は、慈愛、大悲、随喜、捨身の四つです。これを「四無量心」といいます。真言宗の重要な実践項目です。「慈・悲・喜・捨」と覚えてください。

第二番目の「大悲」とは、他人の苦しみや不安を取り除くことです。人々は妄りに煩惱を起して苦しみの海に溺れているからです。

難儀をしている人と同じ気持ちになって、自分も共に悲しむことを「同体大悲」といいます。それは、指にトゲがさされば、その痛みが全身の苦しみとして感じるようなものです。各地の災害は、国民全体の痛みでもあります。他の苦しみを自分の痛みとして感じるのが同体大悲です。わが子の病気や怪我、悩みごとを、親は自分のことのように心配して寄り添います。これによって苦しみがやわらぎます。

大悲とは、相手がかわいそうだから助けてあげるというものではありません。救わずにはおられないという、同体大悲から発露される情念です。つまり、今の自分の真心をどのような形で他に行なうかということが問題なのです。それを思えば、いつも自分のことで精一杯の私が恥ずかしく思われます。

金龍寺の十一面観音のご真言は、「オンマカキャロニキャンワカ」と唱えます。「大きな悲しみを救う」という意味です。大観音の足元に坐ったり、周囲を巡ったりしてください。あなたの悲しみを受け取ってくださいます。